

<大人の麻疹（はしか）>

今回は巷で流行している大人のはしかについてです。一般的には子供がかかりやすい病気とされていますが、近年は大人の感染者が増加傾向にあります。それは一体なぜなのでしょう？

ワクチンの未接種が大きく関係している！！とされています。

はしかワクチンは乳幼児を対象に義務付けられた1978年以降2006年4月までは一回だけの接種とされていましたが後の研究で一回だけでは免疫が不十分なケースがあり、それ以降2回の接種が義務付けられました。2008年～2012年で実施された追加接種制度が設けられましたが、2016年現在、26歳から39歳の人は、はしかワクチンを一回しか接種していない世代として、はしかに感染する可能性が高いと言える状況です。一回目のワクチン接種の有効期限は特に定められてはいませんが、徐々に抗体は減っていきます。2006年4月以降にはしかワクチンは2回接種する事が義務付けられ、1歳児と小学校入学前に接種することを基本として2016年現在、7歳～26歳の人は2回のはしかワクチン接種していることになり、この世代の人は免疫力が高く、感染確率は低いのです。40歳以上の方ははしかワクチンを接種することが義務ではない世代ですが、自然に感染した上で治癒をし、抗体を持っていることが多いとされています。このため、はしかに感染したことがなく、一回のみのワクチン接種をした26歳～39歳に感染が多発しているようです。成人してからはしかに感染すると症状が重くなり合併症に苦しむ可能性もありますので抗体検査や2回目の接種をすることが大切かと思われます。